



「アグロス・アートプロジェクト 明日の収穫」は県立美術館発の、農業とアート体験を掛け合わせた地域アートプロジェクトです。美術館敷地内の農園で農作業を体験しながら、アーティストとプロジェクト参加者が収穫物をもとに一つの作品づくりを行います。今年のいくつかの関連イベントを行った上で制作計画を立てる「種まき編」、翌年の計画に基づき作品を制作・展示する「刈入れ編」として2年間かけて実施され、この度「種まき編」の参加者を募集いたします。

プロジェクト参加に際してアートや農業の知識も資格も要りません。様々な分野への関心と積極的な「やってみよう！」の気持ちがあれば大歓迎。この土に根ざした学びと実践の「場\*」を舞台に、あなただけのアート体験を始めてみませんか。

一畝も詩も大地から湧く、我らの宗教も芸術も、ないしは生活も、ただ真にこの一つの大地から湧き出たものであらめたい。

江渡秋嶺\*2「田作りの詩語り」

\*1「aypo./agros」。古代ギリシャ語で「耕地」や「野原」の意。

\*2 青森県五戸町出身の思想家(1880-1944)。1911年東京世田谷に「百姓愛道場」をひらき、のち上高井戸に移住し、家族とともに農園を営む。その農業実践と思索の間で独自の「場」の思想体系を構築した。

アグロス・アートプロジェクト 2017

agros art project 2017 step 1. sowing seeds

# 明日の収穫 〈種まき編〉

参加作家について

人が大地に刻む農耕の(リズム)があります。例えば築かれる畝。田植えの手つき。それらの人が大地に残す痕跡は、今ある現実を編む無数の根っこの一つです。その根っこは、大地と時間をかき回しながら「種々のモノたち」「百姓」と言い換えてよいかも知れませんが現します。それらは石ころ、骨、土器の欠片、種のひとすくいとといった、一見取るに足らないモノたちばかり。しかしそれらは今回の参加作家とプロジェクト・メンバーの手により、現実世界にもう一つの生態系をつなぎ還すモノとなることでしょう。

大小島真木 おおこじま・まき 画家 ▶ 作品制作の担い手として参加

1987年東京都東久留米市生まれ。2011年女子美術大学大学院修士課程修了。描くことを通じて鳥や森、菌、鉱物、猿など他者の視野を自身に内在化し、物語ることを追求している。作品とは思考を少しずらしたり、視野を少し変えてみせたりすることの出来る“装置”のようなものであると考え、日々制作中。主な賞に2009年ワンダーウォール賞、2014年VOCA奨励賞。個展、グループ展多数。インド、ポーランド、メキシコなどで滞在制作。2017年フランス海洋調査船タラ号にレジデンス・アーティストとして参加。近年、南沢氷川神社(東京)に天井画奉納。2017年多摩六都科学館(東京)との共同制作にてプラネタリウム番組を公開。同年に太田市美術館・図書館のグループ展、府中市美術館の公開制作に参加予定。

http://ohkojima.com



大小島真木

齋藤瑠璃子 さいとう・るりこ 画家 / 齋藤農園3代目 ▶ 農業の場づくりに参加

1984年秋田県仙北市生まれ。2009年多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。2011年から故郷に戻り農業と制作活動を開始。両者をともに軸とし、自らの日常体験をベースに、絵画作品や立体作品を空間インスタレーションの手法で展示する作品群を制作。主な個展に2011年「森の共犯者 郷の抽象化」(ゼロダテアートセンター東京)他。主なグループ展に2016年「あきたの美術」(秋田県立美術館)、2017年「VOCA展2017」(上野の森美術館、東京)他多数。2009年第24回ホルベイン・スカラシップ奨学者。齋藤農園は職業軍人だった氏の祖父が戦後に興したもので、土地に300年以上伝わる日本一大きいとされる「西明寺栗」や、周囲の豊富な溪流の水を活かした「原木椎茸」等を育てている。

http://saito-ruriko.com



齋藤瑠璃子 | グリッターおぼけ | 2014

## 平成29年度

「種まき編」として収穫を体験し、秋から冬にかけてアーティストとプロジェクトメンバーで画材としての収穫物の活かし方・加工の仕方や作品のモチーフを検討し、作品制作を計画していきます。



美術館敷地内の農園で扱う米、雑穀の栽培スケジュール

### 4-5月 発芽, 土づくり, 農園準備



### 7月 中干し



### 8月 開花



### 9月 稲刈り



### 10-11月 乾燥, 脱穀, もみすり, 精米



### 12月 冬の準備 土の移動



## 平成30年度

▷ 7月29日|土| ①14:00-15:00 ②15:00-16:00

①全体説明会

②「土地を拓く前に『サルケ』で狼煙を上げる」 講師 | 増田公寧 (青森県立郷土館学芸主査)

今後の企画の進み方をお伝えするとともに、レクチャーを行います。テーマは「サルケ」。サルケ(泥炭)は、青森で古くから用いられてきた燃料です。土地を拓く中で、人々はサルケを上手に活用していました。「サルケ」について知ることで、本企画の始まりを告げる時間とします。

▷ 8月19日|土| ①14:00-15:00 ②15:00-16:00

①レクチャー「青森の米づくりと開拓の歴史」 講師 | 成田敏 (青森県立郷土館ゲストキュレーター)

②アーティストトーク 講師 | 大小島真木, 齋藤瑠璃子

青森の米づくりと開拓の歴史を学ぶと同時に企画参加アーティストが自作を語るトークイベントを行います。

▷ 9月16日|土| 時間未定

①インド民俗画の現代の担い手・ワイエダ兄弟によるワルリ画\*の公開制作 (予定)

②インド・アッサム地方のダンスカンパニーによる公演 (予定)

③参加作家らによるワークショップ (予定)

\*農耕をもとにした自然観に基づき、すりつぶした米と水を混ぜてつくる白い絵の具で制作するインド西部の民俗画

▷ 17日|日| 時間未定

①②に加え、③「農業とアート」をつなぐシンポジウム

講師 | 石倉敬明 (芸術人類学 / 秋田公立美術大学准教授), 樺木野衣 (美術批評), 豊島重之 (モレキュラーシアター主宰 / ICANOFキュレーター), 山内明美 (歴史社会学 / 大正大学准教授)

協力 | NPO法人 日印交流を盛り上げる会

▷ 10月 参加アーティストとプロジェクト・メンバーによる勉強会等①

予定内容 | 今後の方針共有

▷ 11月 参加アーティストとプロジェクト・メンバーによる勉強会等②

予定内容 | 米, 雑穀の画材への加工の仕方を学ぶ

▷ 12月 参加アーティストとプロジェクト・メンバーによる勉強会等③

予定内容 | 作品モチーフについてのミーティング

▷ 1月 参加アーティストとプロジェクト・メンバーによる勉強会等④

予定内容 | 中間成果発表の準備 [1]

▷ 2月 参加アーティストとプロジェクト・メンバーによる勉強会等⑤

予定内容 | 中間成果発表の準備 [2]

▷ 3月 平成29年度の成果を発表するプロジェクト中間報告展示を予定

会期 | 3月の2週間程度

会場 | 青森県立美術館内

7-9月の関連イベントや3月の中間報告展示はプロジェクト参加者の方でなくてもご参加いただけます。全回無料。青森県立美術館内で行います。詳細は美術館ウェブサイトをご覧ください。

「刈入れ編」として昨年度の計画をもとに、アーティストとプロジェクト・メンバーがともに実作品の制作を行い、美術館で展示を行います。